

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.10
平成27年10月7日

桜っ子の優しさ、純粹さに感激！

6日（火）3～4時限目に観劇会がありました。今年の鑑賞作品は、「すわらじ劇団」による「てんぐのろくべえ」でした。とても素晴らしい演劇で、子どもたちが、大笑いする場面もあれば、登場人物に完全に同化し、感情豊かに悲しんだり、怒ったりする場面もいくつかありました。

低学年にも分かりやすい内容で、うそつきのろくべえが、最後には正直に「自分は、人間でなくててんぐの子ども」であることを村人に話し、正直で働き者であることを認められ、人間の仲間に入れてもらいます。「うそをつかず、正直に生きることの大切さ」を教えてくださいました。

劇中、きつねがとらえられ、虐げられる場面では、舞台下で観ている桜っ子から、悪役の人たちへの抗議の叫びが飛び出す場面もありました。桜っ子の心根の優しさ、純粹さを鑑賞態度からも感じ取ることができました。

【あらすじ】

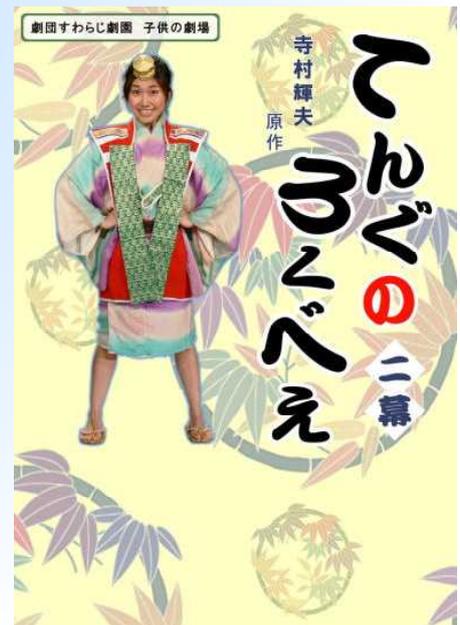
昔、山奥の天狗の村に、天狗なのに人間のように鼻の低い子ども”ろくべえ”が生まれました。ろくべえは、大きくなっても鼻が低いままで、天狗の術もうまくないため、仲間からばかにされていました。

ある日、大人天狗たちが、「人間の国では、うそを上手につく者が偉くなったり、金持ちになれるそうさ」という話をしているのを耳にしたろくべえは、「うそをつくことぐらい何でもないぞ。人間の国で偉くなって仲間を見返してやる！」と天狗の国から旅立ちました。

人間の国に着いて最初に出会ったのは山賊でした。山賊は、昨日の晩、庄屋どんの家から大金を盗んできたところだったので。いきなり山の中で天狗に出会ったので、山賊は腰を抜き、「どうか命だけはお助け下さい。このお金は差し上げますから」と盗んできた百両の金を放り出し、逃げて行ってしまいました。

ところが、村では昨夜庄屋どん家に泥棒が入って、大金を盗んでいったと大騒ぎ。ろくべえは、たちまち捕まって、庄屋どん家へ連れて行かれたのです。

「なるほど、この人が大うそつきの偉い人なんだな。よし、この人に負けないうそをついてやるぞ」と、ろくべえは、大はりきり。ところが・・・。



【児童の感想より】

- ・「てんぐのろくべえ」は、おもしろかったです。しょうやさんは、いじわるでいやでした。おもしろくて、いっぱいわらいました。また、きてください。たのしいげき、ありがとうございました。
1年A子
- ・てんぐのろくべえは、たのしかったです。ろくべえは、かわいかったです。しょうやさんは、うそばかりでした。すごいげきでした。また、きてください。
1年B子